

編集後記

一、巻頭を飾って戴いた藤田県知事等の貴賓の祝詞・激励の言葉で記念誌発刊の意義を一層明確にして下さいました。五十年を節目として、広島県遺族会が、英霊の心を心として、捲土重來の英気をもって、焦土の中から立ち上り、茨の路を切り開いて来た、歴史的記録を纏め、将来再びかかる事の無きを願い、尊い生命を国に捧げた英霊の護国の神として永久に安かれと祈念して刊行しました。

遺族会の今日あるは貴賓各位の御厚情と御支援の賜でありまして、深く感謝の意を表するものであります。

二、平成五年八月に編集委員に任命されました、県下旧選挙区の一区三名、二区四名、三区四名の計十一名、平成五年十月二十八日第一回の委員会に於いて互選で委員長、副委員長をきめ編集の方針、執筆の内容の目次概要を検討し資料の蒐集等について協議しました。

大要、県本部の歩み、県下二十八支部の活動概況、思い出の記の三部に纏めることにしました。

三、『県本部の歩み』は本書の骨子ともなるべき章であり、特に事務局長 野坂守夫氏にお願いし主任と成って戴く事にした。

幸いなことに事務主事の米田ミサ子氏が創設以来の勤続者でありまして力になりました。特に野坂事務局長には専任事務の多忙な寸暇を

索いて資料の蒐集、記録、執筆、校正に至るまで献身的な努力をされ、又日本遺族会本部等連絡を密にし、遺族会五十年史としての史的統一性に留意され、豊富広範に集録下さって遺族会の歩みを明確にして戴き深く感謝致します。

四、支部の活動記録については各支部長が責任をもって執筆していただき、編集委員は指導助言に分担担当された支部に出張し原稿の内容について修正加筆等統一を図ることに努めると共に、活動運営の特色の表現に留意した。遺族会の組織は高令者多く、役員交代がはげしく、又町村合併市制の実施等で支部の区域の変更があり活動の一貫性を欠く等の事があり、資料の蒐集記録に苦慮された事と思います。支部長の御協力に之を支援戴いた役員各位に厚く御礼を申し上げます。

五、『思い出の記』は本部及び支部長の依頼された方の執筆と特に進んで投稿下さった方の心のこもった玉稿、特に婦人部の方の日本の母として生き抜かれた文章には感泣に咽ぶものがあります。遺族会の努力目標は、英霊の顕彰に婦人部の研修援護につづいて後継者たる青壮年の育成でありました。親会たる我々今五十年を節目に、この三つの目標がどう効果的に進展して来ているか反省し、更に新しい計画と希望をもって、遺族会の進路を定める時であると思えます。

六、最後に今一度、本書の本旨に添い想いを新たに見ますと、敗戦日本が半世紀にして今日の如く復興発展したこと、云うまでもなく、英霊の心を心として粉骨碎身、日本国民が奮起努力したお陰でありま

す。

かつてアメリカ占領軍が日本の畏怖すべきルーツとしての「皇室」と「神社」を徹底的に攻撃しました。日本にはアメリカに無いものが四つある。「天皇陛下」と「靖国神社」と「富士山」と「桜」があるから日本は強いのだ、『日本は慰霊の国だ』だから強いのだ!!と外人はいつています。

私は先年広島県遺族会主催の南方慰霊の旅に参加してシンガポール、ポートモレスビー、ラバウルと東南アジアの島々で慰霊巡拝しました。全てが欧米白人の植民地であったのが独立国になって、飛行場からおりと花輪を首に掛けてくれ、中学生達が集まって来て学校に行けるのも靴が履ける様になったのも日本のお陰だと歓迎してくれました。日本は戦争には負けましたが大東亜共栄圏の目的は達成していることを見て、異国に眠る英霊に感謝し、福山で咲いた菊花、総領の羊羹等々古里の思い出のお供をして慰霊の誠を捧げて巡りました。

然るに今の日本の情勢はどうでしょう。平和に酔い、誤った民主主義に走って『日本の心』を忘れつつある様です。

遺族会は老いてはいけません。英霊を護国の神として永遠に生かさなくてはなりません。本書が、英霊の心を体して、「日本の心」を少しでも取り返すお役に立つことを祈念いたし、編集委員会議に力たらず会員の願望に対して誠に調査不備、記録不十分なる記念誌となりましたことを深くお詫び申します。本誌刊行に当り、県よりは出版補助金を賜り、歴史と伝統ある中本総合印刷の近代的技術をもって当って戴き厚く御礼申します。

広島県遺族会のあゆみ編集委員会委員氏名

編集委員長	長谷川 春秋	相談役	前世羅郡会長
副委員長	亀田 義光	理事	尾道市会長
副委員長	井上 千代	県青壮年副部長	広島市
委員	伊藤 正己	県副会長	山県郡会長
委員	舛本 久恵	常務理事	大竹市婦人部長
委員	下西 璋彦	県副会長	東広島市会長
委員	正金 登美恵	県副会長	県婦人部長
委員	相島 ハツエ	常務理事	呉市会長
委員	保井 清三	理事青壮年部参与	豊田郡
委員	高橋 隆美	常務理事	福山市副会長
委員	井澤 聖昭	常務理事	県青壮年部長
事務局長	野坂 守夫	事務主事	米田ミサ子
			庄原市